

ねりま健育会病院

症 例 概 要 90代女性

疾患名：第5腰椎圧迫骨折後廃用症候群

入院期間：2025年2月中旬～2025年3月中旬

現病歴：2024年12月中旬、昼寝から起きた直後から左大腿部痛が出現し、翌日体動困難となり第5腰椎圧迫骨折の診断を受ける。12月下旬にコルセットを作成し、2025年1月下旬にライフサポートねりまの入所を経由して、同年2月中旬日当院にリハビリ目的で入院となる。

内 容

入院時、腰背部痛はNRS3程度あり、やや全身的な廃用症状も残存しBBS38/56点であったが、歩行器歩行にて病棟ADLは概ね自立レベルであった。MMSE26/30点と高齢の割比較的認知機能が保たれており意思もしっかりされている方であった。「歩けるようになって早く自宅に帰りたい」と早期退院の強いご希望があったが、ご本人の活動的な在宅生活を想定すると、病前毎朝の日課であった公園で実施している健康体操のコミュニティへの参加、それに伴う移動（500m程度の歩行）や階段・段差昇降等には不安が聞かれていた。

チームでは、ストレスをより軽減した入院生活の提供と、身体機能向上と屋外の安全な歩行器歩行自立、屋内のフリーハンド歩行・伝い歩き自立、段差・階段昇降自立と毎日の日課である健康体操への参加と役割活動（家族との買い物）の再獲得を目指して介入を行った。

通常のリハ医療に加え、入院生活の満足度向上の為に、ご本人が以前茶道の先生をしていたという役割を活用し、様々な方の協力を得て「お茶会」を開催した。事前に「お茶」についての語りをご本人から引き出し、作法について学習し、説明書や手順表などを用意して、当日ご参加いただく方が戸惑いなく参加出来、先生・生徒お互いにとって良い場になるよう工夫した。リハビリ室の和室の一角を活用して装飾を含めた場づくりも行った。多方面の方の協力があって、当日は皆さん笑顔でお茶と和菓子を召し上がっており、ご本人様も参加していただいた患者さんやスタッフの方に対してしっかり先生として振舞われ、大変満足したご様子であった。

結果、入院生活は満足度の高い時間となりリハビリにも積極的に取り組まれ、退院時にはBBS44/56点まで向上し疼痛は消失、歩行器を調整する事で休息を交えた歩行が1km可能となり段差昇降も見守りで可能となった。早期退院でもより安心・安全な在宅生活の為に、家屋評価を実施して提案書を作成・提供させて頂いた。

ご本人の早期退院の希望を叶えるために、入院生活の不安・ストレスをご本人様の個別性を最大限活用して軽減し、満足度を高めることによってモチベーションを引き出し、身体機能としても短期間で最大限の成果が得られた症例。

【Our Teamの関わり】

- ・医師：全身状態管理、間食許可の指示
- ・看護師：生活管理、心理面のサポート
- ・セラピスト：心身機能、ADL向上、お茶会の企画運営・参加
- ・MSW：当日の生徒役、退院支援
- ・病棟他患者：装飾物の作成、生徒役
- ・ご家族：和菓子や茶道の道具一式のご準備
- ・外部業者（お花の先生）：お花の飾り付け